第3に，授業過程の反省であり，特に視聴覚教材の利用についての事後の検討である。予測は，文字どおり予測であって，多くの授業は，予測どおりに進行するものではない。もっとも，教科書を一行一行読んでゆき，時に解説的に模型やスライドを示すのみで終る授業ならば別であるが。本来，授業は教師のものではなくて，学生生徒のためのものであり，この本来の授業において，視聴覚教材の提示をめぐって，学習者の主体的な話し合い，討論，理論的追求がなされるはずである。従って，教師による授業過程，視聴覚教材の予測が，学習者によってどのようにうけとめられ，彼らの思考活動，学習活動がどのように変容していったかを分析することが必要となる。この分析が蓄積されてゆくことによって，視聴覚教材の適切な利用がしだいに身についてくるのである。

従って，**第4**に，視聴覚教材を，単に教師の「ことば」による説明，講義の補助手段と考えるのではなくて，むしろ，積極的に，学習者の思考を促進し，みずから知識，技術を獲得するための手段と考えるべきである。スライドや模型を使用しながら，あたかも教科書を講義しているような説明をしている授業がみられる。新しい概念，新しい術語を与えるために，時にそのようなことは必要であるが，知識を整理したり，問題を発見させるためには，学習者の全我的な観察をしいるような，つまり考え発言しなければならないような状況に追いこむ「問い」を発することも必要である。これはまた，授業の焦点化であり，質の高い授業をすすめてゆくためにも必要である。

さいごに，むしろさいしょでもあるが，**第5**に，各種教具の取り扱いになれることが必要である。女性は一般に機械に弱い，とか言訳があるが，むずかしい事は別として，簡単な操作や作業ができることが望ましい。カメラの操作，写真引伸し，スライド作成，8ミリカメラの操作，映写，16ミリ映写機の操作，テープコーダーの操作，スライド映写などであるが，映写機類などはかなり共通性があるし，共同で指導者をまねいて講習をうけるなり，仲間の愛好者をリーダーに研究すれば，さして困難なことではない。

もっとも，教具はあるけれども使い方がわからない，というよりも，何よりもまず教具がないのだ，というのが多くの看護学校の悩みなのかもしれないが。

（岡山大学講師）

編集デスク　<24>

芋魚の到来

——長谷川　泉——

わが豚児には遠い山口県にペン・フレンドがいる。一度写真を送ってよこしたのを見ると，真黒に日焼けした健康そうな漁村の子供である。ペン・フレンドといっても雑誌で文通がはじまっただけで，年に2，3度の交際らしい。年に1度ぐらいは品物も送られてくる。

漁村の子供らしく，最近たくさんの魚を送ってきた。包装からして干魚の匂いがプンとする。何という魚かは知らないが，干魚にもしあげのよしあしによって，つやが違うこと，あたかも強いすもうの皮膚の張りとつやが違うのと同様である。それにしても，ずいぶんたくさん送って来たものだ。わが食卓を満たしてなおなかなか消化しきれない。おそらく，この干魚は愛すべき素朴な魚村のペン・フレンドがみずからの労力によって，かくも立派な色つやを持った干魚にしたてあげたものであろう。干魚の現物は，無言に，そのことを物語っているようである。

たくさんの，色つやのよい干魚が幼い東京のペン・フレンドの食卓をにぎやかにすべく山口県からはるばる送られて来ただけの話ならば，それはそれで嘉すべく，それだけの話であるが，たどたどしい手紙には題して芋魚とある。あゝ芋魚とは，いかなる魚であるか，残念ながら魚の語彙にはない。

愛すべく，素朴な，野性の，おそらくは健康にはちきれたこのペン・フレンドは干魚の意味で芋魚と書いたものであろう。わが家では誰一人，この干魚を干魚と呼ぶ者はない。今にいたるまで，干魚は台所の一隅に居を占めているが，芋魚と愛称されて改められない。芋魚と呼ぶときに，愛すべき幼いペン・フレンドの容貌が眼前に髣髴するのである。これは干魚ではなく，断じて芋魚でなければならない。そう思うと栄養のよい芋のように，この干魚は肉も厚く，色つやがよく，食べても美味である。

芋魚は，決して幼い，愛すべき，素朴なペン・フレンドへの軽侮の意味はない。かくして，朝夕，そこで芋魚のことばはわが家の家族の口々に乗せられ，そして芋魚はまだ食べきれない。

© IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/10/11 08:10:01